

## 英語学研究B I

単位数	2
開講時期	前期

## 授業の目的および概要

## 英語音声学入門

本講義は、英語に焦点を当てた音声学(English Phonetics)の入門クラスである。  
音声学の基礎概念や英語音声についての専門的知識を学びながら、Praatと呼ばれる音声分析ソフトを用いて実際の英語音声进行分析することで、英語の音声的特徴や発音構造についての理解を深める。  
また、本講義では、グローバル化する社会においてますますその通用度が増す英語の多様性も研究の射程に入れる。特に、アメリカ英語とイギリス英語の相違点、アメリカやイギリス国内における英語の地域性などをテーマとして扱う。  
最後に、日本人にとって習得の困難な英語母音(や一部の英語子音)に焦点を当て、特に日本語音声の特徴と対比させながら、ネイティブ発音と日本人発音との違いを科学的に理解する。さらには、学生各自が自分の英語発音について音声学的観点から自己診断を行い、よりネイティブに近い発音を習得することも目指す。  
講義では、教科書的知識だけでなく、音声分析の実習を重視し、各種メディア(Youtubeなどの動画サイト、ネット上で公開されている言語学系データベース、映画DVDなど)からの実音声进行分析し検討する時間を多く設ける。

## 授業方法

英語音声学の入門書(洋書)の抜粋をテキストとして講読しながら、音声研究を進める上で土台となる基礎概念や専門知識を学ぶ。  
講義はCALL教室で、原則、英語で行う。毎時間、次回講義の予習プリントを配布するので、学生はテキストの指定箇所を読み、プリントを完成して講義に臨むこと。  
講義では毎時間、学生が二人一組で指定されたテキスト箇所の内容を日本語でレジュメ(またはパワーポイント)にまとめ、英語で説明を加える。その後、総括または補足的講義を担当者が行う。適宜、音声分析ソフトを用いた実音声の分析も行う。  
学期の終盤では、日本人にとって獲得の難しい英語母音に焦点を当て、学生各自が自分の英語発音の自己診断を行い、ネイティブ的発音の習得へ向けたパフォーマンスセッション(発音実習)の時間を設ける。

## 到達目標

英語音声学の専門的知識の応用として様々な英語音声を科学的に分析する技量を身に付ける。また、自己の英語とネイティブの英語との音声学的相違点を明らかにし、それらを克服することでよりネイティブ話者に近い英語音の獲得を目指す。

## 授業計画

1. オリエンテーション、音声学とはなにか。
2. 音声の生成・伝播、調音器官
3. 調音場所・様式1: 概説
4. 調音場所・様式2: 音声分析ソフトによる分析
5. 英語子音1: 概説
6. 英語子音2: 音声分析ソフトによる分析
7. 英語母音1: 概説
8. 英語母音2: 音声分析ソフトによる分析
9. 英語のアクセント、ピッチ、イントネーション(音声分析ソフトの実習を含む)
10. イギリス英語の多様性(容認発音(RP)・スコットランド英語・アイルランド英語・ウェールズ英語)
11. アメリカ英語の多様性(地域差、民族差)
12. 日本語音声・英語音声の対照分析
13. 音声ソフトを用いた英語発音の自己診断および発音矯正練習
14. 英語子音・母音の発音パフォーマンス
15. 全体の総括と試験

## 成績評価方法

出席状況、学生発表、予習プリントへの取り組み、学期末筆記試験で総合的に評価する。

### 準備学習

毎時間課される講義内容についての予習プリントを完成して講義に臨むこと。

### 教科書参考書

教科書：プリント教材を使用。

参考文献：① Rogers, Henry. (2000). *The Sounds of Language: An Introduction to Phonetics*. Pearson Education.  
② Wolfram, W., & Ward, B. (2006). *American Voices: How Dialects Differ from Coast to Coast*. Blackwell. ③  
Trudgill, P., & Hannah, J. (2002). *International English: A guide to varieties of Standard English*. 4th Edition.  
London: Arnold.

### 注意事項

講読したテキスト内容と講義内容に関する学期末試験があるので、毎時間の授業の進度に合わせてテキストを読んで講義に参加すること。

特に旧カリキュラムの学生は、後期の英語学研究B(II)とともに通年で履修することが望ましい。

言語学や言語学系の各種概論を履修済みであることが望ましい。

初回の講義では、様々な重要事項を説明するので絶対に欠席しないこと。